

事業事前評価表

1. 案件名

国名：バングラデシュ人民共和国

案件名：小規模農家農業生産性向上・多様化振興融資事業

L/A 調印日：2014年6月16日

承諾金額：9,930百万円

借入人：バングラデシュ人民共和国政府（The Government of the People's Republic of Bangladesh）

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における農業開発セクターの開発実績（現状）と課題

バングラデシュの農業セクターは、GDP の約 17%（2012 年）及び就業人口の約 45%（2012 年）を占める重要セクターである。耕地面積は国土の約 50%を占め、近年では高収量品種、灌漑、乾季ボロ米の導入推進により年間耕作地利用率は 190%（2011 年）、食糧自給率は約 100%を達成（2012 年）している。今後も高い耕作地利用率や都市化の影響による耕作地の減少、人口増加に伴う需要増に対応するため、高収量品種や市場価値の高い作物栽培の導入促進を通して可耕地の農業生産性、多様性を上げていく必要がある。しかし、全農家世帯の約 8 割（2008 年）、総作付面積の約 5 割（2008 年）を占めるバングラデシュの主要な農業生産者である小・零細農家は、農業投入資機材への資金アクセスの制約や農業技術の不足等により、新規作物栽培、高収量品種、農業機材等の導入が困難であり、可耕地の生産性や多様性の向上に十分対応できていない。

かかる状況のもと、バングラデシュ政府は中央銀行主導のもと農業生産性の向上及び作物多様化に向けた融資の拡充を図っている。農家の農業金融の総需要額が約 5,120 億タカ（中央銀行推計 2014 年）であるのに対し 2013 年の農業セクターに対する融資総額は約 1,660 億タカであり、約 3,470 億タカの需要ギャップがある。とりわけ総需要額の約 8 割を占める小農、零細農は最もギャップが大きい。加えて、農業融資総額の 9 割を銀行機関が占めているが、小農、零細農は銀行融資に要する担保の提供が困難なことからも農業融資へのアクセスは非常に限定的である。農村における金融商品の提供機関として従来マイクロファイナンス機関（以下、「MFI」と呼ぶ）が重要な役割を果たしているが、MFI の融資対象は家計や小商業、家内工業などへの補完的な小口融資が中心であり、作付け期・収穫期・栽培コスト等の農業生産サイクルのニーズ（審査期間、融資額、返済方法等）に適応した金融商品の提供には対応できていない。

(2) 当該国における農業開発セクターの開発政策と本事業の位置づけ

国家開発戦略における最上位に位置付けられる「第 6 次 5 ヶ年計画」（2011/12～2015/16 年度）、及び「国家農業政策」（2009 年）では、国民の収入向上及び食糧安全保障を達成するため、農業生産性向上に重点を置きつつ高収量品種子の研究開発・導入促進、農家の技術改善、灌漑導入による作付け回数の増加、耕地条件に応じた作

付けを推進し、農業生産性向上と作物の多様化を図ることとしている。農業金融面では中央銀行の「農業・農村金融政策計画」（2012年）において MFI と連携して農業生産性向上を図るとしており、本事業は、当該計画に沿ったものである。

(3) 当国の農村開発セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

対バングラデシュ JICA 国別分析ペーパー（2013年4月）、対バングラデシュ国別援助方針（2012年6月）においては「社会の脆弱性の克服」を重点課題、「農業・農村開発」を開発課題として分析している。同開発課題への支援方針として貧困削減・地域間格差是正の観点から、今後の人口増加に対応しさらなる農業生産性の向上、多様化および高付加価値化を通じた食糧安全保障の強化を図る支援も実施することとしており、本事業はこれら方針・分析に合致する。近年の主な実績は以下の通り。

- ・有償資金協力：小規模水資源開発事業（2007年）、南西部農村開発事業(2010年)、北部総合開発事業（2013年）等

- ・無償資金協力：地方道路簡易橋設置計画（I:2005、II:2006、III:2007）、食糧備蓄能力強化計画（2012）

- ・技術協力：住民参加による統合水資源開発のための能力向上プロジェクト（2012-2017年）等

(4) 他の援助機関の対応

アジア開発銀行は、バングラデシュ西部地域を対象に農業生産性向上及び作物多様化を目的として、中小規模農家への農業資金・技術支援を実施している。また、国連食糧農業機関、デンマーク国際開発機関は中小規模農家対象に、生産性向上（機械化、技術普及、灌漑整備、機材供与）、病虫害管理、高品質種子の供給、表流水管理等の技術支援を行っている。

(5) 事業の必要性

小・零細農家への金融供給において重要な役割を果たす MFI の農業活動融資に向けた資金供給能力の向上及び小・零細農家への農業技術普及を支援することは、当国の農業生産性・多様性の向上に大きな意義を要する。本事業は円借款ツーステップローンによる資金支援を通じて当国の小・零細農家の金融アクセス改善を目指すものであり、同国の開発政策、我が国及び JICA の援助方針にも合致することから JICA が本事業を支援することの必要性・妥当性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、バングラデシュ全土においてバングラデシュ中央銀行から参加マイクロファイナンス機関（Participating Microfinance Institutions: 以下、「PMIs」という。）への転貸を介した小規模・零細農家への農業生産性向上に資するツーステップローン供与、及び借入農家に対する農業技術指導を実施することにより、農業金融に係る資金仲介機能の円滑化、小規模・零細農家の農業生産性の向上、作物の多様化を図り、もって農業金融の深化及び農業セクターの発展に資するものである。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名：バングラデシュ全土

(3) 事業概要

1) 小・零細農家農業生産性向上、多様化振興融資：PMFI を通じた小・零細農家に対する農業生産性向上、作物多様化に資する活動への融資。中央銀行から PMFI はタカ建て、金利は公定歩合以下、返済期間最長 2 年で転貸される。PMFI から小・零細農家はタカ建て、金利 20%以下、返済期間は 3 ヶ月～2 年（含む据置期間 1 ヶ月～半年）で貸し出される。

2) コンサルティング・サービス：PMFI の審査や農業技術指導、事業進捗に係るモニタリング支援。

(4) 総事業費

総事業費：10,805 百万円（うち円借款対象額：9,930 百万円）

(5) 事業実施スケジュール

2014 年 6 月～2019 年 12 月を予定（計 67 ヶ月）。ツーステップローンの貸付完了時をもって事業完成とする。

(6) 事業実施体制

1) 借入人：バングラデシュ人民共和国政府（The Government of the People's Republic of Bangladesh）

2) 事業実施機関：財務省金融機関局。ただし、実際の事業実施は財務省の委託を受けてバングラデシュ中央銀行(Bangladesh Bank)が行う。

3) 操業・運営／維持・管理体制：財務省の委託を受けてバングラデシュ中央銀行 (Bangladesh Bank)が行う。

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

2) 貧困削減促進：本事業は、小・零細農家向けに、長期・低利で農業資金を供与し、併せて農業技術支援も行うことから、貧困削減に貢献する。

3) 社会開発促進（ジェンダーの視点、エイズ等感染症対策、参加型開発、障害者配慮等）：融資対象者の 50%以上を女性とするなど貧困女性に対し積極的に融資を行っている MFI を優先的に選定することで、貧困女性の金融アクセス改善を図る。

(8) 他スキーム、他ドナー等との連携：特になし。

(9) その他特記事項：農業生産性の向上と作物の多様化を政策・制度面から支援するため、農業省農業技術普及局向けに円借款附帯プロジェクトを実施予定。

4. 事業効果

(1) 定量的効果

1) 運用・効果指標

指標名 (単位)	基準値 (2014年実績値)	目標値 (2021年) (事業完成2年後)
融資回収率 (%)	0	98%以上
女性融資対象者の割合 (%)	0	50%以上
*戸当たり農業粗収益額 (タカ/ha/年)	前年度の実績を サブローン供与時に調 査	30%以上増加
*主要農作物別単収 (Kg/ha)	同上	20%以上増加
*戸当たり生産農作物の種類 (種類数/年)	同上	2種以上増加
農業研修の受講延べ人数 (人)	0	20万人以上

*融資対象農家は数万世帯に及ぶため、融資対象農家に係る指標は、サンプルベースで確認する。

2) 内部収益率

サブプロジェクトが特定できないため、算出せず。

(2) 定性的効果

農業金融の深化、農業セクターの発展

5. 外部条件・リスクコントロール

大規模洪水等の自然災害等。

6. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

スリランカ「貧困緩和マイクロファイナンス事業」の事後評価等から、融資を提供するのみならず各種の啓蒙活動・研修・助言等能力開発の徹底が効果発現に重要であるとの教訓が得られている。

(2) 本事業への教訓

本事業では、上記教訓も踏まえ、PMFIは小・零細農に融資するだけでなく、農業の生産性向上、作物の多様化に資する農業技術トレーニングも併せて提供する。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる指標

- 1) 融資回収率 (%)
- 2) 女性融資対象者の割合 (%)
- 3) 戸当たり農業粗収益額 (タカ/ha/年)
- 4) 主要農作物別単収 (Kg/ha)
- 5) 戸当たり生産農作物の種類 (種類数/年)
- 6) 農業研修の受講延べ人数 (人)

(2) 今後の評価のタイミング：事業完成2年後

以 上